

講義評価アンケート瓦版

二〇一二年の北工会運動会は皆さんの団結力で優勝を勝ち取りましたが、皆さん元気に講義を受けていますか？資源循環システムコース・教育システム改善委員会は四月からメンバーを入れ替わり、新委員長として広吉先生、委員に福嶋先生、胡桃澤先生の体制になりました。



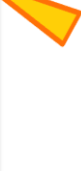
廣吉新委員長



胡桃澤委員



福嶋委員



**福嶋の一言**  
アンケートの内容は毎年「かわら版」で読ませていただいておりますが、英語の講義の開講に対する要望が多く見られます。英語は技術情報を世界へ発信したり得たりする重要なツールであることは確かですが、英語力があっても肝心の理系専門に対する能力がなければ宝の持ち腐れとなるでしょう。英語力は、技術者として必要不可欠なスキルです。私が関わっている理学系の講義と実験で、「教わっていかないからできない」、「どのような解答の仕方が評価されるか」という言葉を耳にしました。学問は人から習う(learn)ものではなく自ら「探求(Investigate)するもの」です。大学で学ぶ学問は、いずれも完全とは言えません。

広吉新委員長から一言

4月から委員長となった広吉です。約10年前に教育システム改善委員会の立ち上げに関わって以来長らく「クビ」になっておりましたから、しばらくぶりの復帰です。皆さんよろしくお願いいたします。

今年度からは2年生の皆さんが4月にコース移行してくるようになり、資源循環システムコースのカリキュラムも大きく変わることになりました。この新しいカリキュラムは、コースの先生たち全員で2年近い時間をかけて議論を繰り返してつくったものです。議論の際に先生たちの頭の中にあっただのは、学期ごとの教育システム改善アンケートなどを通して寄せられる学生の皆さんの意見！皆さんの意見はカリキュラムを左右するほどのパワーを持つものですから、今年も私たちのコースをよりよくするために前向きな意見を届けて下さい。

さて、カリキュラムが新しくなったとはいえ、私たちのコースで皆さんに学んでもらおうとしている内容そのものが変わったわけではありません。私たちのコースでは「資源」を軸に、それに関わりの深い「地球」や「環境」などの問題を、基礎から応用まで総合的に勉強してもらっています。

ここで質問です！このような形で「資源循環システム」を大学で学んで社会に出ていく人が日本にどのくらい居るか知っていますか？ その答えは**日本中あわせて年間165名！**少し大きめの町の小学校の卒業生くらいの数ですね…

環境を保全しながら資源を確保することが、日本や世界の豊かな生活を維持するために不可欠なことは明らかです。4年生・3年生の先輩方も、2年生の新人さんたちも、このコースで学ぶ一人ひとりが日本や世界の将来を支える165分の1の貴重な人材であることを忘れないで学生生活を送って下さいね。

★ TEACHER OF THE YEAR 2011 ★

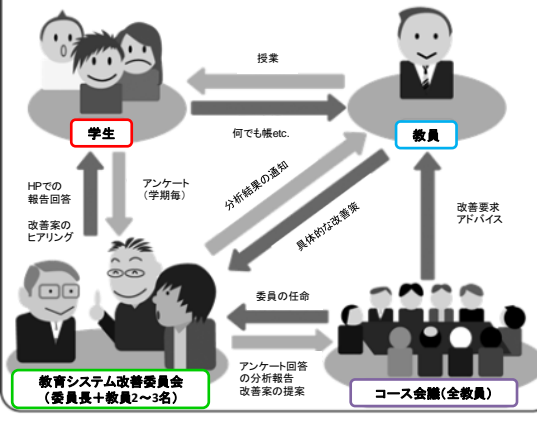
毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として最も評価された科目の担当教員は、Teacher of the YearとしてコースHPに掲載されています。2011年度のTeacher of the Yearは、「**流体工学**」原田先生



**原田先生のコメント**  
「**流体工学や水理学は、工学部のほとんどのコースで学習します。もしも学生の皆さんが社会に出た時に、流体に関することが人より理解できていなければ、それは全て私の責任です。良い評価をもらったことは嬉しいですが、それ以上に責任を果たせたことにほっとしています。**」

**この科目に寄せられたコメント**  
・おもしろくて、気付けばおわってました。  
・わかりやすくなるように板書の図などが工夫されていた。  
・難しいはずの流体工学が分かりやすくて、楽しかった。…etc.

本コースにおける教育改善の仕組み



アンケートで寄せられた講義・コースへの意見・要望

H23年度のアンケートで寄せられたコースへの要望や質問についてお答えします。より詳しいアンケートの結果は、結果の分析とともにコースHPに掲載しています。

- Q. 一部の講義において声が聞こえない等の講義に対する要望があげられました。**  
A. 講義室が広い場合にはマイクを使用して講義を行っていると思いますが、講義室が縦長である場合など一部聞き取りづらい場所もあると思います。その場合には積極的に講義室の前のほうに座るようにしましょう。それでも聞こえない場合は担当の先生にお願いをするようにしましょう。
- Q. '現在のカリキュラムにはないが、あればよいと思う科目や学習内容(こんなことを勉強したい)'について、「英語に関する講義」が挙げられました。**  
A. 2012年度の2年生からの新しいカリキュラムでは「技術英語(3年後期)」が開講されます。3・4年生の皆さんのコースカリキュラムには英語の講義はありませんが、全学の英語に関する各種講義やCEED(工学系教育研究センター)主催の「Brush-up英語講義」などが受講できます。ぜひ調べて挑戦してみてください。
- Q. 講義に関する休講や連絡などが、資源の掲示板に掲載されていないとの意見があげられました。**  
A. 講義に関する連絡等に関しては、資源の掲示板だけでなく担当の先生のコースに掲載されている場合がありますので、担当の先生にどこに掲載されるか講義の最初に確認するようにしましょう。
- Q. アンケートが長い、記入しにくい、WEBで行ってはどうかという意見が数件寄せられました。**  
A. アンケート中の科目名がすべて掲載されていたため回答しにくかったと思いますが、今後は例えば3年後期のアンケートをお願いする際には3年後期に受講可能な科目名だけを残して、回答がしやすくなるように次回アンケートから改善します。また、WEB上でのアンケート実施は、高い回収率が見込めないと考えられるため現時点では導入する予定はありません。

資源循環システムコースでは下記の行事を予定しています。皆さん、積極的に先輩や後輩とコミュニケーションをとって大学生活をエンジョイしませんか。

- 行事予定**  
4月 新2年生歓迎会      6月 大学祭、資源杯大ソフトボール大会、北工会運動会  
7月 学科対抗テニス大会      8月 オープンキャンパス、大学院入試  
10月 北大ホームカミングデイ、インターンシップ報告会      11月 卒論中間発表会  
12月 研究室仮配属(3年生)、工学部卓球大会      1月 工学部雪上綱引き大会  
2月 卒論発表会、追い出しコンパ      3月 卒業式



新任の先生から挨拶

**太田朋子先生**  
(地圏物質移動学研究室)  
担当講義: 工学基礎化学Ⅰ、計測工学実験Ⅰ、資源循環システム実験

コメント: 1年前に京都大学から北海道大学に赴任しました。環境放射能・環境科学が専門です。

トトロの森が生まれ故郷です。道内の食材がおいしく横軸に成長中。トトロは10年後の体型の未来予想図。服のバリエーションは白衣か作業着の2択。伊藤先生・原田先生に教育的指導をされることもしばしば。

好きな物: ラベンダー、抹茶、アルカリ単純泉、博物館の昆布、げっ歯類、ラジウム同位体。  
北大に来て気になったもの: 岩力Tシャツ、氷の上の綱引き、資源流・酒の嗜み方。  
好きな北海道弁: 「汽車」、「なまら」、「やめれ」。  
学祭Best料理: ミャンマー料理、綿あめ。

研究室に遊びに来ていただければ抹茶もしくは、ネコ型ポットでハーブティーをどうぞ。



研究室配属希望の学生へ: 部活をやっている人、大歓迎です!



**大竹翼先生**(環境地質学研究室)  
この4月から応用地質学研究室の准教授として着任した大竹翼です。「くりーむしちゅー」の上田に似ていて、学生か教員か良く分からないなっつて人を見かけたら、きっと私ですので声をかけてみて下さい。鹿児島県出身で、学生時代から、福岡、アメリカ、仙台などを転々としてきました。そして今年度から、ここ北大の資源循環システムコースで、皆さんと一緒に未知の領域の研究や新しい技術の開発に携わっていかれることをとても楽しみにしています。

専門は資源地質学、地球化学で、現在は特に鉄鉱床やレアアース鉱床の形成プロセスや、初期地球の表層環境に関する研究を行っています。野外調査は、日本国内だけでなく、カナダ、オーストラリア、南アフリカなど海外で行う事もあります。学部生の講義では、応用地質学(2年後期)、技術英語(3年後期)を担当予定です。地球科学や地質学は、地球システムという大きくて複雑なシステムの中で我々が生きて行く術のヒントを与えてくれます。自然と向き合って研究や仕事をして行く事の楽しさを伝えられたら良いなと思っています。また、大学院時代はアメリカで過ごしたので、海外での学生生活や研究生活などに興味のある人は、気軽に聞きに来て下さい。私のオフィスはA6-15です。

研究以外で好きな事は、美味しいものを食べて、飲む事です。北海道は美味しいものがたくさんあるので、これからどんどん開拓して行きたいと思います。美味しいもの情報があったら教えて下さい。よろしくお願いいたします。